

科目名	現代メディアとジャーナリズム		
教員名	宮坂 政宏		
授業種別	週間授業	授業形態	講義
開講間隔	週 1 回	単位数	2
履修年次	1	学期	2021 年度 前期
到達目標	<p>今日のジャーナリズムとは何か、様々なメディア・マスコミの現状、課題を通して学ぶ。同時にジャーナリズムの担い手であるジャーナリストが備えている諸手法への理解と初歩的な技能の修得を通じ、将来、教員・社会人にも求められている高度で複雑な情報化社会で情報の主体的な受け手（情報の価値理解）、良識ある批判者（客観的分析者）、活用者（表現・発信を通し社会＝我々の世界の課題解決を図る）となる実践的素養の基礎を身に着ける。（主としてディプロマポリシー 1～3、カリキュラムポリシー 2 に対応）</p>		
授業概要	<p>前半の講義ではメディアとジャーナリズムとは何か、具体的に紹介する。  後半の講義では情報の受け手、分析、発信者としての実践的な授業を展開する。  授業全般を通し、情報の価値、今起こりつつある事象の課題発見力、課題分析力設定力、自ら設定した課題を解決するための取材方法、取材で得た情報の編集、記述・表現、マスメディアに乗せた発信など一連のプロセスを学ぶことで、情報源（事象）にアクセス（情報選択力）し、課題を発見する力、情報・事象の分析力、情報編集力、表現力・発信力の基礎をつけるとともに、情報発信による社会（我々の世界）への訴求力、課題を主体的に解決する力の基礎を習得する。</p>		
授業計画	<p>第 1 回 講義概要（講義の目的、方法、評価）  第 2 回 ジャーナリズムの定義  昔から様々な定義がされてきた。それらを紹介するとともに、具体的なニュース、番組などを通して確認する。  第 3 回 ジャーナリズムの社会的な位置づけ、法的な位置づけ表現の自由、著作権にも触れる。  第 4 回 ジャーナリズムの担い手、ジャーナリスト像 1  ジャーナリストとはどのような人たちで、どんな仕事に携わっているのか。  第 5 回 ジャーナリズムのフィールド、メディア論 1  TV、新聞、WEB、SNS などメディアの種類、特徴について。  第 6 回 ジャーナリズムのフィールド、メディア論 2  受け手から見たメディアについて解説、フリートーク  第 7 回 ジャーナリズムのフィールド、メディア論 3  「マスコミ」はどのように変わってきたか。巨大で独占的な「マスコミ」から誰もが参加する「マスコミ」へ  第 8 回 ニュースの読み方、作られ方  商業的ジャーナリズム、ブラックジャーナリズム、フェイクニュースなど、ジャーナリズムが抱える問題点を読み解く。また、情報（課題）の探索・課題の設定、取材、記事化、編集・加工、発信まで。ジャーナリストのニュース作りに向けた手法を学ぶ。  第 9 回 ジャーナリズムの担い手、ジャーナリスト像 2  ジャーナリストとはどのような?たちで、どんな仕事に携わっているのか。  主なテーマ：ニュース・番組作りで大切なことは何か  第 10 回 前回の振り返りと、実際のニュースの作成 1  これまでの授業を振り返り、得た知?を活かしニュースを作成する。  TV、新聞、雑誌、WEB、SNS などメディアグループに分かれ、各メディアの特性を生かしたニュースづくりと発信を行う。第一回目はニュースづくりにとって根本ともいえる課題・対象・テーマの設定。  授業外学習としてテーマ、取材したい対象、内容を準備する（できるだけ身近な話題）。  第 11 回 実際のニュースの作成 2  模擬編集会議：企画・取材計画作り  各グループで、準備したテーマをもとにニュースバリュー、取材方法・計画、掲載内容を検討。  授業外学習として取材、調査。授業外学習として取材、調査した内容を次の編集会議で報告できる形にまとめる。</p>		

	<p>第12回 実際のニュースの作成3  模擬編集会議：取材・調査内容の報告に基づき編集。セッション用プレゼンテーション原案の作成。授業外学習として追加取材・調査の実施、結果のとりまとめを行う。</p> <p>第13回 セッション用プレゼンテーションを協働で作製する。</p> <p>第14回 各メディアグループによるプレゼンテーションを行う。</p> <p>第15回 プレゼンテーションに基づく討議、講評</p>
授業方法	講義並びにワークショップ、グループワーク、調べ学習
アクティブラーニングの視点	調べ学習、ワークシート（企画書、取材計画書など）の作成、協同学習（討議、模擬編集会議などのグループワーク等）、取材・調査の報告、セッション用プレゼンテーションの作製・プレゼンテーション
授業外学習	第2回以降は、各講義内容にあった課題を出す。
教科書	教科書は指定しない。必要な資料は随時配布する。
参考書	必要に応じて授業中に紹介する。
評価方法	授業での討議等の場面での参加度・発言の適格性（30%）、授業内容に関する知識理解（確認アンケート、テスト 40%）、ジャーナリズム的手法を?いた初歩的視点・技能の修得（編集企画、取材、記事 30%）、各観点について5段階評定する。
既修条件	なし
実務経験のある教員による授業	新聞記者、雑誌編集長などジャーナリストの経験を有する教員が、取材、メディアによる報道の実例を交えて指導・演習を行う。